３　地域別の動向

（1）北　海　道

北海道地域では、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

- **鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。**
- **個人消費はやや弱含みとなっている。**
- **雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。**

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（＿は上方修正、＿は下方修正）。

前回調査からの主要変更点

なし。

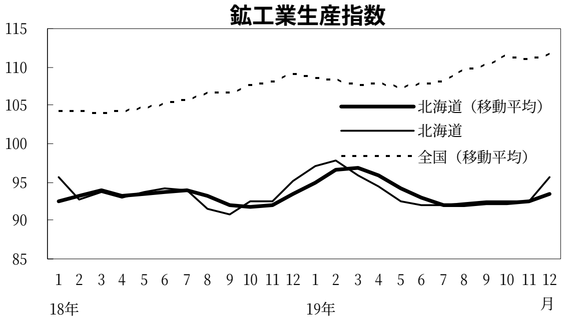
1．生産及び企業動向

（1）　第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。

生乳生産は、牛乳等向けは減少したが、乳製品向けが増加したため、総量では941,516tと前年比2.3%増となった。水産業（主要８港）は、ほっけ、するめいか、さんまが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

（2）鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、清涼飲料水、冷凍食品の受注減により減少している。パルプ・紙は、紙パック用雑種紙の需要減により減少している。電気機械は、携帯電話向け水晶振動子の受注が好調だったことからおおむね横ばいとなっている。窯業・土石は、建築基準法改正による生産調整のため、受注が落ち込んだことから、減少している。金属製品は、道外からの工事受注や携帯電話基地局の建設により、増加している。



（備考）１．12年＝100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
２．全国及び北海道の太線は後方３か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比)　(%)

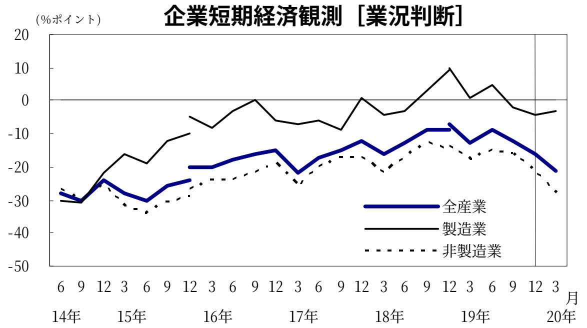
	付加価値ウェイト	生産 7～9月期	生産 10～12月期	出荷 10～12月期	在庫 10～12月期
食料品・たばこ	26.5	▲5.3	▲4.0	▲5.5	5.1
パルプ・紙	12.1	3.7	▲2.5	▲0.7	▲1.3
電気機械	9.5	7.0	0.8	0.9	41.9
窯業・土石	9.0	▲10.7	▲4.3	▲3.5	▲1.9
金属製品	9.0	6.9	2.9	▲0.5	6.7
鉱工業	100.0	▲ 0.8	1.5	0.4	5.8

（備考）１．地域における付加価値ウェイトの高い５業種。
２．10～12月期は速報値。

（3）企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

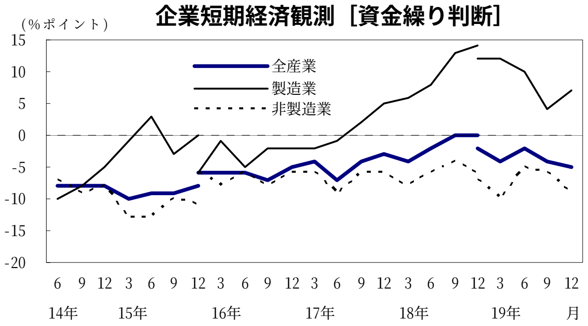
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

企業短期経済観測［業況判断］



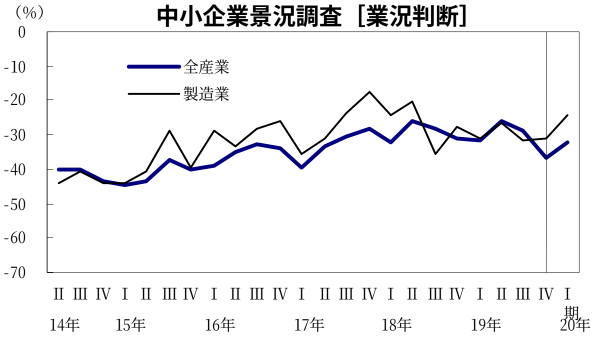
（備考）「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

企業短期経済観測［資金繰り判断］



（備考）「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

中小企業景況調査［業況判断］



（備考）「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年Ⅰ期は見通し。

②景気ウォッチャー調査（1月）［企業動向関連（現状）］

「燃油高騰や食品の値上げ等が消費者の生活に与えている影響は大きく、珍味類等のし好品の購入意欲が後退している。受注動向から、消費者の購買は必要最小限の生活必需品に限られているように見受けられる（食料品製造業）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

（4）19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

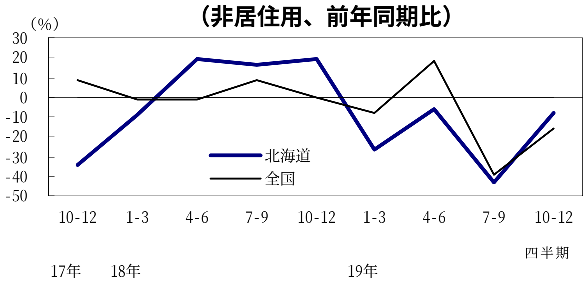
企業短期経済観測調査［設備投資（12月調査）］

（前年度比、%）

	18度実績	19度計画
全　産　業	▲ 9.3	17.7(　5.8)
製　造　業	▲20.0	49.3(　16.0)
非製造業	▲ 3.2	3.1(▲ 0.1)

（備考）（ ）は前回（9月）調査比修正率。電気・ガスを除く。

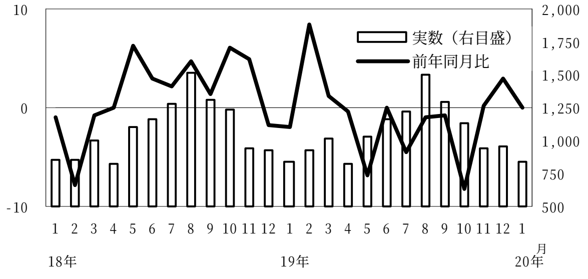
建築着工床面積
（非居住用、前年同期比）



（5）観光はおおむね横ばいとなっている。

来道客数は、10月は前年の航空機会社の運賃引き下げ効果の反動減により減少した。11月から1月は東京・大阪方面からの来道者数は引き続き堅調だが、地方圏からの来道者数が低調なことから、全体でも横ばいとなっている。

来道客数



（備考）北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2．需要の動向

（1）個人消費はやや弱含みとなっている。

①大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

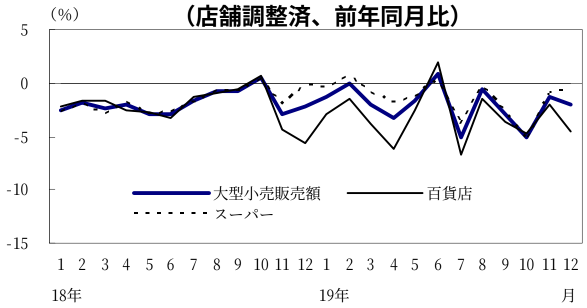
百貨店は、10 月は、気温が高めに推移し、秋冬物衣料品や鍋物商材が不調だったことから前年を下回った。11 月は、気温が高めに推移し、冬物衣料品やロングブーツ等の身の回り品の売行きが不調だったことから前年を下回った。12 月は、気温が低めに推移したが、クリアランスセール前の買い控えの影響からウールコート等の冬物衣料品が不調だったことや、歳暮商戦を 11 月から前倒しで開始した反動もあり、６か月連続で前年を下回った。

スーパーは、肉や野菜などの飲食料品の売行きが好調だったが、衣料品、身の回り品、家庭用品の売行きが不調だったため、全体としては前年を下回った。

②景気ウォッチャー調査（1月）[家計動向関連（現状）]

「相次ぐ食品の値上げや灯油、ガソリンの値上げにより、生活防衛意識が高まっている。即席めんやカップめんの動きが鈍る一方で乾めんやパスタの動きが活発になっており、米、ハム、ソーセージなどのタイムサービスに長蛇の列ができる（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

大型小売店販売額
（店舗調整済、前年同月比）

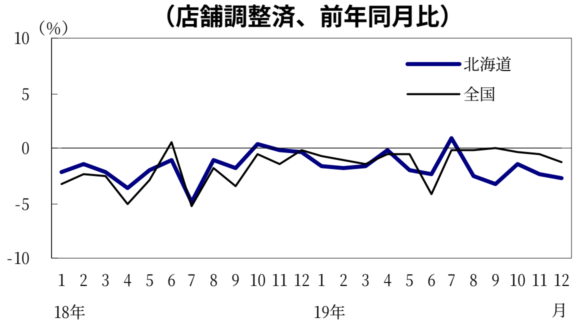


（前年同期比、%）

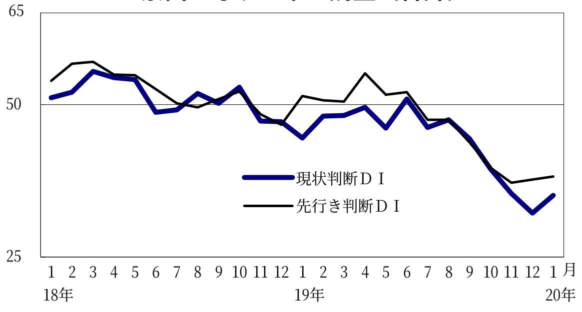
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲1.2	▲1.4	▲2.9	▲2.7
百貨店	▲2.9	▲2.3	▲4.2	▲3.9
スーパー	▲0.3	▲1.0	▲2.3	▲2.1
コンビニ	▲1.7	▲1.6	▲1.7	▲2.2
景気ｳｫｯﾁｬｰ	47.0	47.9	45.9	36.2

（備考）1．大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2．景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断ＤＩの３か月平均。

コンビニエンスストア販売額
（店舗調整済、前年同月比）



景気ウォッチャー調査（合計）

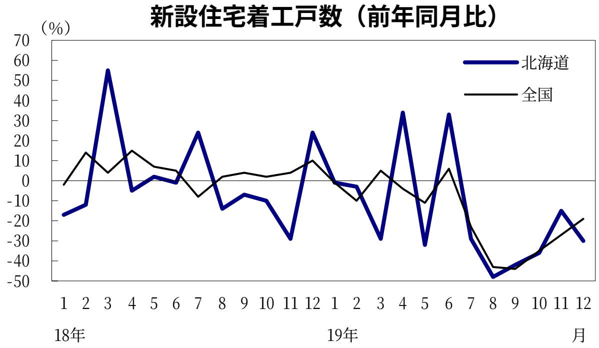


（2）住宅建設は大幅に減少している。

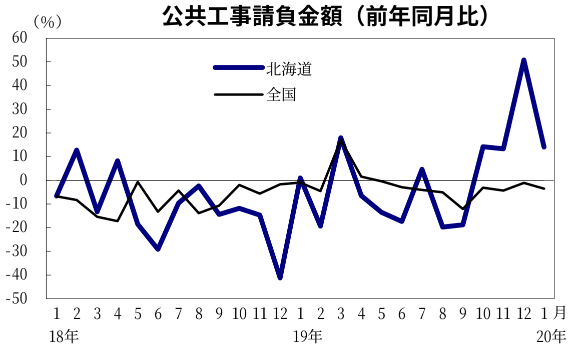
貸家、分譲が大幅に下回ったことから、全体では大幅に減少している。

（3）公共投資は 19 年度累計でみると前年度を下回っている。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



公共工事請負金額（前年同月比）



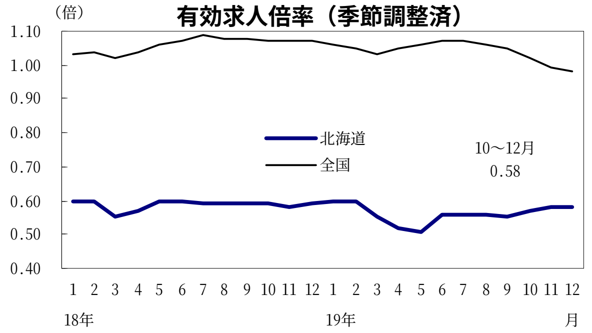
３．雇用情勢等

（1）雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

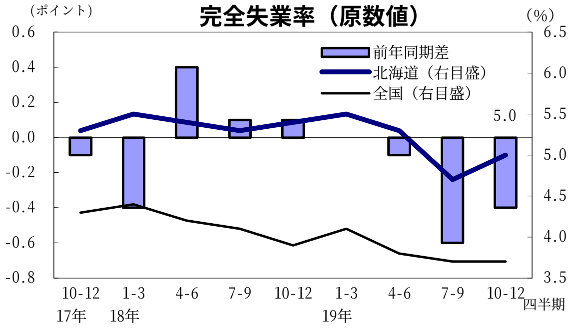
①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

有効求人倍率（季節調整済）



完全失業率（原数値）



②景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

「新規求人数が４か月連続して減少している。産業別にみると、情報通信業、飲食店、宿泊業、サービス業で前年比プラスとなっているが、その他の産業は前年比マイナスとなっており、全体では前年比 96.3%となっている（職業安定所）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

（2）企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が横ばいとなっている。

１月に倒産件数が大幅に増加している。

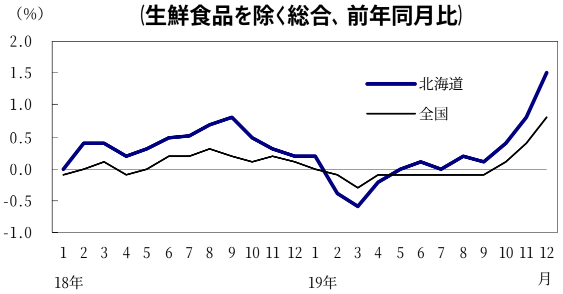
（3）消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

（件、億円、%）

	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	159	172	138	132	50
（前年比）	11.2	20.3	23.2	0.0	31.6
負債総額	497	431	464	816	80
（前年比）	50.3	▲6.0	▲18.2	▲51.6	▲47.8

消費者物価指数
(生鮮食品を除く総合、前年同月比)

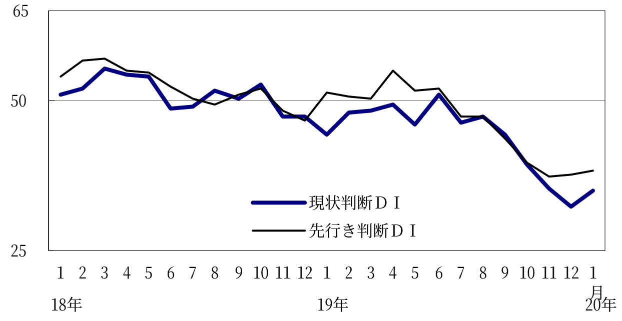


○　景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由)]

＜現状＞

・本来なら１月は新年会が行われる月だが、今年は新年会そのものが減っている。得意先の話によると、新年会の出席人数が 10%程度減っているようであり、２次会に流れる客も少なくなっている。そのため酒の販売量も相変わらず伸び悩んでいる（一般小売店［酒］）。

＜先行き＞

・このまま灯油代が下がらなければ、雪解けの５月くらいまでは、ランチ客に影響を及ぼすことになる（高級レストラン）。

景気ウォッチャー調査（合計）